

認知したいじめを速やかに解消した事例6（中学校第1学年女子、小学校第6学年男子）

～相談機関におけるメール相談の対応～

○ケース1 周囲からのいじめに悩み、信頼できる人に相談することで解決した中学生の事例

問題の把握

相談者は中学校1年生の女子生徒本人。相談者は学校生活において、同じクラスのある生徒とすれ違いざまに悪口を言われたり、言い返すと陰で叩かれたりするなどされていることから、つらい思いをしており悩んでいる。今後、どうすればよいのかについての助言を求めるメールでの相談を受けた。

対応状況

○ 相談機関の対応

本件について、一人で抱え込むことなく、身近にいる信頼できる人に相談すること、もし、自分から学校の先生に相談することが難しいようであれば、保護者から学校の先生に伝えてもらうことを提案する内容のメールを返信した。

○ 相談者の変容

相談者は、メールの返信を受け、自分から先生や友人に伝えることを決心した。結果として、信頼できる友人にじっくりと相談をしたことにより、いじめは解消したとの報告があった。

○ケース2 保護者が、学校や関係機関と連携を取って早期対応をした小学校の事例

問題の把握

相談者は小学校6年生の男子児童の保護者。相談対象者が、6年生になってから転校した新しい学校でからかわれるようになり、仲良くなった友人に話しかけることも遮られるなどの嫌がらせを受けるようになってきた。現状を改善するために、学校との連携の取り方についての助言を求めるメールでの相談を受けた。

対応状況

○ 相談機関の対応

どんな些細なことでも、相談者や相談対象者の思いを学校に伝えていくこと、いじめの対応について心配があれば、管理職とも納得がいくまで話し合いをして、共通理解のもと、協力して相談対象者を守っていく姿勢が大切であるという内容のメールを返信した。

○ 相談者の変容

相談者は、今まで以上に相談対象者とのコミュニケーションを取りながら、担任の先生と連携を図るようにした。その結果、学校は相談対象者を中心に据えた対応を積極的に行うようになり、相談対象者も相談者も安心感を得ることができたとの報告があった。

いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・一人で抱え込むことなく、周囲の信頼できる人に早急に相談をすること。
- ・悩んでいる児童生徒の保護者の協力、関係機関等の連携の下で迅速に対応すること。